藍見公民館だより

令和６年３月１日
藍見公民館発行第１２号

◈大禅寺作品展◈

３月のギャラリー・あいみは笠神にある大禅寺よりお借りした書・陶芸などの作品を数点展示します。是非ご覧ください。
期間：３/４（月）～３/２７（水）
平日 10：00～16：30

◈戸籍証明書発行について◈

3/1 より相続関係の戸籍証明書（除籍証明書・改正原戸籍）はふれあいセンターでは発行できません。必要な方は、美濃市役所の市民生活課の窓口でお手続きください。

◈第２６回藍見地区ふれあい文化祭開催◈

２/２４（土）・２５（日）の二日間にわたり、藍見地区ふれあい文化祭が開催されました。二日間とも大変寒さの厳しい天候でしたが、約２５０人の来場者がありました。

１日目は藍見小体育館にて開会式が行われ、午前中は花乃家金葉さんによる落語、誕生八幡神社楽保存会による十六拍子が披露され、午後からは４つのバンドグループによるジャズやギター演奏で来場者を楽しませてくれました。

２ 日目の午前中は藍見公民館で活動しているフラダンス・モモナや 3B体操クラブの皆さんによるステージ発表、今年初出演のＦＵＮ・FUN・ＦＵＮ笑組の皆さんによるダンスパフォーマンスが行われ、文化祭を大変盛り上げてくれました。

午後からは子どもたちが楽しめるゲームコーナーや消防ふれあいコーナーなども設けられ、みんな笑顔で楽しんでいました。

また福祉パンや焼き芋の販売、コーヒーや甘酒が振る舞われ来場者の方も冷えた体を温めていました。

また公民館では地域の児童や大人の方より寄せられた１６０点の作品で彩られ、来場者がひとつひとつ作品を鑑賞しながら、時折足を止め「これはどうやって作っているんだろうね。綺麗だね。」などの感想をのべながら楽しんでいました。

文化祭開催にあたり、ご出展・ご出演いただきました皆様、駐車場を提供いただきました（有）サエキ精工様、幅茂喜様、美濃建設会館様、また準備から３日間ご協力いただきました役員の皆様及び藍見小・昭和中ボランティアの皆さん、多くの方々からご協力をいただき、無事に文化祭を開催出来ましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

どうする？公民館（入門その十二）　三月号

藍見公民館長　藤川好康

●公民館は「地域作り」で何をすればいいのか？

日本が抱えている大きな課題は、何といっても「高齢化」と「少子化」である。

高齢化は2050年には39％を超えると言われ、人口が減少していく中で、65歳以上の高齢者が急増し、反対に15歳から64歳までの社会を支える年代が減少していく。

もう一つの課題は生まれてくる子どもが急激に減少する少子化だ。年間3000万人近くが誕生していた日本では2050年には一〇〇〇万人と3分の1まで減少する。

少子高齢化により人口減少と財政難により消滅する自治体が2040年には全国で900町村になる。生産年齢は現在の人口の半分にまで減少し日本の経済は大きな打撃を受ける。

家庭では共働き世帯が増加し、子どもが十分に守られていない家庭が急増していて、欠食児童とか鍵っ子など子どもを取り巻く環境は劣化の一途である。要保護家庭の子どもたちが急増している。

一方、児童生徒を指導する学校では、学校が果たすべき役割が多岐にわたっていて、授業や部活動以外での対応が増えてきた。教員の働き方改革もあって、教師の負担軽減策が求められるようになった。

こうした現状を踏まえて国は「地域学校協働活動の推進」を大きな柱として現在推進している。つまり「社会に開かれた教育」を推進するために、「地域と共にある学校づくり」として学校と地域が「目標やビジョン」を共有する活動を進めている。言葉を変えれば「学校を核とした地域づくり」である。地域住民と学校職員が目標を共有化して、同じ道を歩もうというのである。これが「地域学校協働活動の推進」である。そして岐阜県では「生涯学習による地域づくり」を具体的な柱としてきた。公民館などで学習したことを地域づくりにも生かしていくことが生涯学習のねらいだとしてきた。

こうした「理念」を具体化していくために、行政は「コミュニティ・スクール」を推進しており、美濃地区でも関市・美濃市・郡上市で本年度からコミュニティ・スクールが具体的に動き出している。

では美濃市の場合はどうか？美濃市も昨年度に各小中学校に「学校運営協議会」が設置され、「地域学校協働本部」もこの3月末で市として設置することになった。だから一応国の方針に従って組織はできた。

問題なのは、具体的にどんな活動をするのか？という中身である。活動内容としては大きく分けて次の4つになる。

1、地域学校協働活動
例　郷土学習　防災教育　福祉教育　授業支援　部活動支援　食育教育　環境教育

2、学校への地域の支援活動
例　学校花壇の整備　環境整備　登下校の見守り　学校田や畑の整備　草刈り　夜間パトロール　補導活動

3、放課後や休日の協働活動
例　子ども放課後教室　土曜の教室　休日の学習支援　スポーツ少年団などの支援

4、体験活動の支援
例　社会奉仕活動　自然体験活動　職場体験活動

こうした活動は今までも多かれ少なかれ行ってきたことであるから、特別に目新しいことではない。つまり、新しいことをするのではなく、今まで行ってきたことをもう一度見直して目的を共にして活動をより深く結び付けていくことである。

美濃市で最大の問題点は学校数が地域と同じではないことだ。美濃市は合併する前の地区が7つある。公民館なども7館あるが、小学校は5校である。地域と言いながら学校の無い地域がある。更に学校規模が不均衡である。

これらの現状を踏まえると安易に学校単位だけで地域学校協働活動を行うことは困難さがある。そこで登場するのが公民館である。地域に根ざして公民館こそが学校と地域とを結び付ける大きな太いパイプである。

「公民館を核とした地域づくり」の根拠はここにある。